

## 4 全国の事例

水環境健全性指標の全国での発展は、2006年9月に日本大学お茶ノ水キャンパスで開催された、公開シンポジウム「水環境を評価する」において、当時検討中であった水環境健全性指標が紹介されたことを契機に進んでいった。聴講していた学会関係者や東京近辺の市民団体関係者から、関東・関西を始めとする各支部などでの紹介、取り組みなどに広がっていったことが大きな要因となっている。

また、本章では水環境健全性指標とは直接には関係しないが、全国で展開されている、河川などの水環境を総合的に見る指標も取り上げる。各指標の多くは各地の行政と市民との連携による活動であり、地域の水環境を水質の面だけでなく、生きものや文化など他の様々な魅力も含めて評価しようという共通点を持っている。なお、これらについて水環境学会誌においても、2011年11月号で特集「水環境の多面的な価値とその評価の試み」として取り上げているので、別途参照していただきたい。

以下に、記載する活用事例については、本研究委員会やメンバーの取り組み以外にも、こうした各地の先駆的な取り組みについて、各ホームページ等に記載されている情報について引用し、紹介させていただいている。これらの活動はいずれも各地の水環境を多様な視点から調査することで、調査者に水環境の状況や水環境保全活動の効果等をより深く認識してもらうことを目的として取り組まれたものが大部分である。ここに各情報についての引用の御礼を申し上げるとともに、すべての取り組みの今後ますますの発展を祈願するものである。

(石井誠治)

### 【参考文献】

- 1) (社)日本水環境学会関東支部 (2006) 関東支部主催、関西支部・日本陸水学会関東支部主催 公開シンポジウム“地域の水環境を評価する”報告、水環境学会誌、29、12、pp. 782-783.
- 2) (公社) 日本水環境学会関東支部、支部活動“講演会等”、“健全性指標調査”：  
<http://www.jswe-kanto.com/> 内 (平成25年5月時点)
- 3) 日本水環境学会編 (2011) [特集]水環境の多面的な価値とその評価の試み、水環境学会誌、34(A)、11、pp. 336-364.

### 4.1 基本的にすこやかさ指標を使っている事例：

#### 4.1.1 富山県一県と財団の連携による環境保全活動と県下一斉調査

##### 1) 経緯

2011年10月に富山の事例として神通川と中田の農業用水路の調査を行い、2012年3月に学会のシンポジウムで発表した。この神通川調査の時に、NPO法人「神通川を楽しむ会」のT氏(富山県生活環境文化部の元次長)に声をかけて調査をお願いした。T氏が県の環境保全課に事前に連絡しておられ、神通川調査に当時の環境保全課水質保全係長ら2名(Y氏、N氏)が参加体験された。その際に、本指標を使った調査が容易であり有用であることを認識された係長らが県に予算を申請・獲得し、運用は財団が行った。

## 2) 展開

「とやま水の生きもの保全事業」として、「みずしるべ」による調査を県民に呼びかけた。実施にあたっては、毎年開催している「企業とNPOの交流会」において、水しるべ説明会を3回実施した。

参加者を中心に、県浄化槽協会青年部会会員などが実施し、延14日、21河川、参加者200名に及んだ。県が主催するイベント「環境フェア」の中で成果発表会を行った。

発表では、小学生が宝物を見つける授業の中で、

近くの新川に注目、ゴミ・水質や生き物を見て、きれいな川なのか、汚れた川なのかわからなくなり、先生の指導のもと、すこやかさ調べをした。最終的にはトミヨもいるきれいな川にゴミを捨てないようにと課題を見つけ、住民への働きかけのポスター作成などに展開していった。調査に参加した浄化槽協会青年部の発表では、各河川の特徴が抽出され、その中で、これを経験した子供が、他の場所での川の見かたをこの方法に準じて見るようになった、との報告があった。最後に、指導者のコメントがあった。

小学校以外は、10人前後の調査グループで、県内で広く実施され、2013年度も継続の予定。



|                                |
|--------------------------------|
| 生活環境文化部 環境保全課<br>財団法人とやま環境財団   |
| (環境保全課)                        |
| 担当：水質保全係 佐野、木原                 |
| 電話：(直通) 076-444-3146 (内線) 2715 |
| (財団法人とやま環境財団)                  |
| 担当：浦谷、浅江 電話：076-431-4607       |

平成 24 年 6 月 29 日

## とやま水の生き物保全事業の実施について

県及び(財)とやま環境財団では、身近な水辺への関心を高め、長い目で見て水環境の改善につなげるため、「水辺のすこやかさ指標(みずしるべ)」を用いて県民の皆様(大人から子どもまで)に簡単に水環境を調べていただく、「とやま水の生き物保全事業」を実施いたします。

### 「水辺のすこやかさ指標(みずしるべ)」による調査とは

快適な水辺であるかどうかを、従来の計測による調査ではなく、「見る、感じる、触る」といった感覚で調べるものです。



### 1 事前説明会及びモデル活動

「企業とNPO等の交流会」の開催(別途、環境政策課において案内を予定。)に併せて、「水辺のすこやかさ指標(みずしるべ)」の説明会及び会場付近の河川においてモデル活動を実施します。

| 会場 | 日時                  | 場所                                     |
|----|---------------------|--|
| 富山 | 7月1日(日)<br>午後2時～4時  | 富山産業展示館テクノホール 会議室<br>(富山市友杉 1682)      |
| 新川 | 7月6日(金)<br>午後2時～4時  | 黒部市国際文化センター コラーレ マルチホール<br>(黒部市三日市 20) |
| 高岡 | 7月12日(木)<br>午後2時～4時 | 高岡おとぎの森公園 アトリウムガーデンほか<br>(高岡市佐野 1342)  |

⇒ モデル活動に参加された方々が中心となり、主に夏休み期間中、県内各地の河川などで調査活動が実施されます。

### 2 調査活動の成果発表

調査活動の成果については、とやま環境フェア 2012(10月20、21日、高岡テクノドームで開催)などで発表することとしております。

# 夏休み調査会 実施結果

## <スケジュール>

| 日時                 | 地域別    | 調査河川           | 調査機関          |               |               |
|--------------------|--------|----------------|---------------|---------------|---------------|
|                    |        | 上流部            | 中流部           | 下流部           |               |
| 7月22日(日)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 7月23日(月)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | いづみ川<br>(いづみ町) | いづみ町<br>(町民会) | いづみ町<br>(町民会) | いづみ町<br>(町民会) |
| 8月1日(日)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 千尋川<br>(千尋町)   | 千尋町<br>(町民会)  | 千尋町<br>(町民会)  | 千尋町<br>(町民会)  |
| 8月2日(月)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月3日(火)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月4日(水)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月5日(木)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月6日(金)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月7日(土)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月8日(日)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月9日(月)<br>9時～11時  | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月10日(火)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月11日(水)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月12日(木)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月13日(金)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月14日(土)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月15日(日)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月16日(月)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月17日(火)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月18日(水)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月19日(木)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月20日(金)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月21日(土)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月22日(日)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月23日(月)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月24日(火)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月25日(水)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月26日(木)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月27日(金)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月28日(土)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月29日(日)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月30日(月)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |
| 8月31日(火)<br>9時～11時 | 富山県 奥山 | 奥山川<br>(奥山町)   | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  | 奥山町<br>(町民会)  |

わたしたちの生活は自然と密接な係わりをもっており、切っても切れない関係にあります。  
わたしたちの生活と自然との関係を知るために、  
まずは身近な「川」の環境を調べてみましょう！

- 今回の調査では、環境省の「水辺のすこやかさ指標 (みずしるべ)」を使って
- ①自然なすがた
  - ②ゆたかな生きもの
  - ③水のきれいさ
  - ④快適な水辺
  - ⑤地域とのつながり
- この5つについて、みんなで楽しく調べました。



主催 富山県、(財)とやま環境財団  
協力 (社)富山県浄化槽協会、(財)環日本海環境協力センター

(風間真理、安田郁子)



#### 4.1.2 大分県一高等専門学校とNPOとの協働による調査と水環境改善のための住民意識の反映の試み

大分県では、一級河川大野川（幹川流路延長 107km、流域面積 1 465km<sup>2</sup>）流域の NPO である大野川流域ネットワーク（以下、大野川ネットと略称）と大分工業高等専門学校（以下、大分高専と略称）が協働して、水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査を実施している。本報告では、九州地区の水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査の事例として、大分県における大野川ネットと大分高専による調査とその活用について報告する。

##### 1) 大野川ネットと大分高専による協働

大野川ネットは、平成 8 年 7 月の大分県竹田市を中心としたボランティア 7 団体が参加した「第一回大野川河川シンポジウム」の開催を契機に、平成 10 年 8 月に大野川流域 13 市町村（当時）の 43 団体が参加して発足した NPO であり、大野川流域の自然環境の保全・復元、地域の活性化と充実に寄与することを目的としている。主な活動は、研究交流のための「大野川河川シンポジウム」、川づくり・地域づくりの実践活動である「源流の碑建立祭」、「クリーンアップキャンペーン」、機関紙・広報誌の発行などである。取り分け「源流の碑建立祭」は、大野川流域 137 河川の全てに源流の碑を建てることを目標に、毎年大野川河口を出発点として流域の各参加団体がリレーして建設地まで碑を運ぶという大野川ネットの地域連携の強さを象徴するユニークな活動である。平成 24 年度末までに 19 河川に源流の碑が建立されている。これらの活動によって、平成 25 年 2 月には（公社）日本水環境学会九州支部水環境貢献賞を受賞している。大分高専では、平成 20 年度から学生による水環境健全性指標調査を実施していたが、平成 23 年 3 月の「第 18 回大野川河川シンポジウム」に参加したのが縁となり、平成 23 年度から大野川ネットとの協働による水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査を実施することになった。

##### 2) 大分高専による大野川流域調査

まず、大分高専による大野川流域における水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査とその結果について報告する。平成 23 年 7 月 27 日から平成 24 年 9 月 28 日にかけて、大分高専の学生（18～22 歳、全 9 回の調査で延べ 71 人）によって、大野川本川と 8 支川・派川の 12 地点が調査された。調査結果を図 1 に示す。ここでは、5 軸のレーダーチャートの最小値を 1、最大値を 3 として表している。大野川本川の 3 地点に着目すると、最上流の白水の滝では 5 軸の値はすべて 2.3 以上の高い値を得たが、下流の白滝橋では総じて値が低下した。さらに、最下流の川添橋では第 3、4、5 軸（それぞれ、水のきれいさ、快適な水辺、地域とのつながり）の値が著しく低下した。また、その他の支川・派川においても各調査地点によって値はそれぞれ異なり、レーダーチャートは特徴的な形状を示した。これらの結果から、水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）はそれぞれの調査地点の水環境の違いを反映できるとともに、地図上にレーダーチャートを表すことで視覚的に容易に比較できることが確認できた。

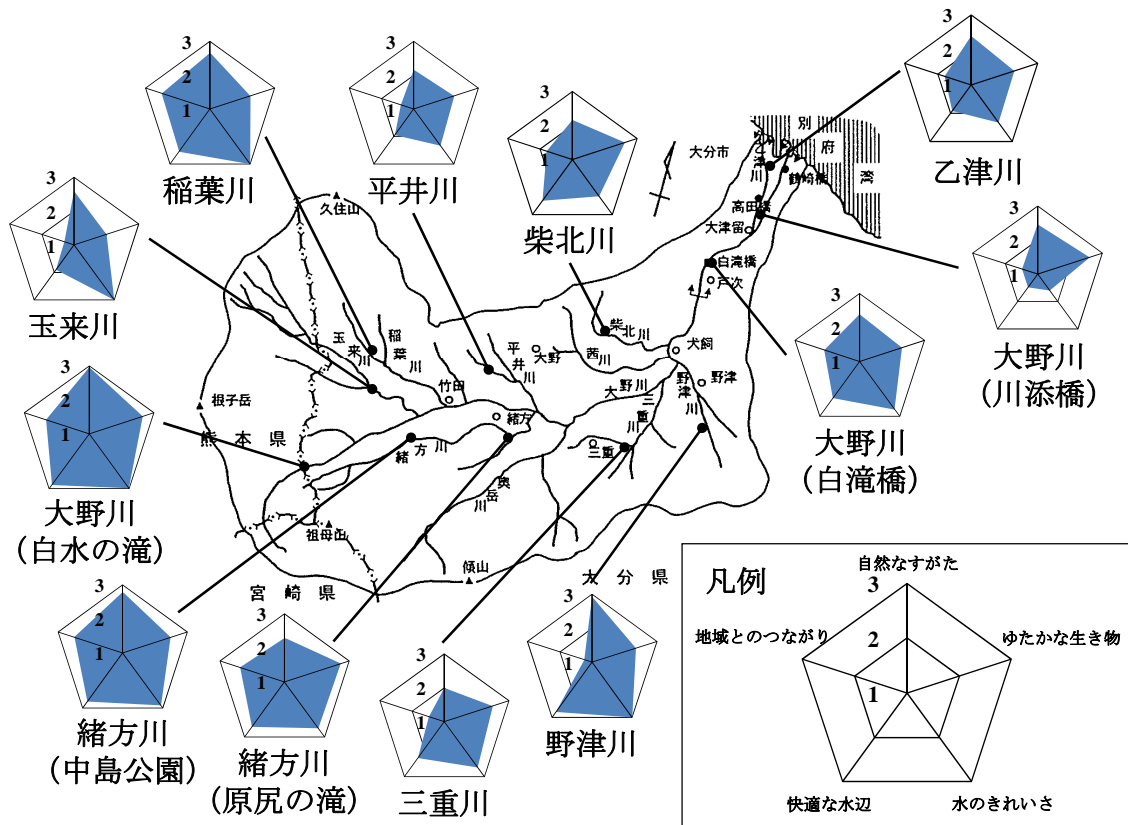


図1 大野川流域の水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査結果

（流域図は、国土交通省九州地方整備局：大野川水系河川整備計画（平成12年）より引用）

### 3) NPOと大分高専の協働による柴北川流域調査

次に、大野川ネットと大分高専の協働による調査とその結果について報告する。ここでは、大野川ネットに参加するNPO「柴北川を愛する会」と大分高専の協働による調査とその結果について報告する。「柴北川を愛する会」は大野川中流域の支川である柴北川（幹川流路延長24.765km、流域面積46.0km<sup>2</sup>）を活動拠点にしているNPOである。

柴北川流域調査は、平成24年5月13日に実施した。調査地点は柴北川流域の集落が存在する最上流付近である山内橋、集落中心の小野橋、最下流の長谷トンネル付近の3地点とした（図2）。調査において、実際の調査者は「柴北川を愛する会」の会員10人（37～64歳）とし、大分高専は調査内容の事前説明や調査補助を行った。



図2 柴北川流域と調査地点（山内橋、小野橋、長谷トンネル）

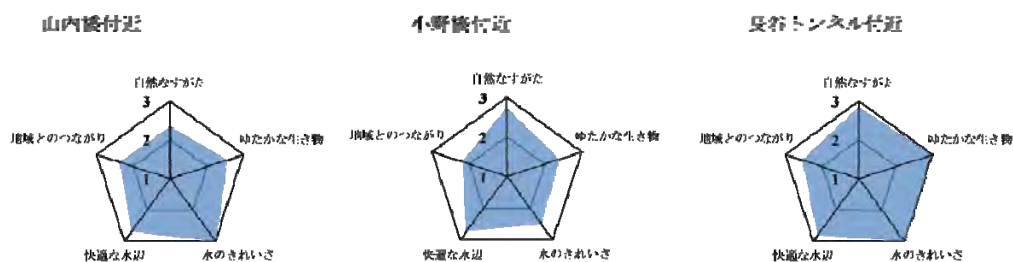


図3 柴北川流域調査の結果

柴北川流域調査の結果を図3に示す。柴北川流域の3地点の結果を比較すると、最下流の長谷トンネル付近が5軸すべてにおいて最も評価が高く、特に第1軸（自然なすがた）と第2軸（ゆたかな生き物）という自然環境に関する評価軸で高い評価となった。これに対して、最上流の山内橋と集落中心の小野橋では複数の評価軸で相対的に低い値となった。特に、山内橋では第1軸（自然なすがた）、小野橋では第3軸（水のきれいさ）で低い評価となった。山内橋は、調査地点の直上流に魚道のない堰があるため、第1軸のなかで「魚が川をさかのぼれるか」の評点が低かった。小野橋は、集落中心での生活排水の流入のためか、第3軸のなかで「水はきれいですか（COD）」の評点が低かった。

調査者である「柴北川を愛する会」の会員は、かつての豊かな水環境を回復させる、あるいは、そのための活動を行うことで地域振興を図りたいという思いが強く、本調査では、調査結果を具体的な環境改善のために活用したいとの意見が聞かれた。この意見は、「子どもや住民・NPO等の活動成果が映し出され、学校教育や行政施策の立案に役立てることができること」<sup>1)</sup>という水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）作成の基本的な考え方に合致するものである。

本指標の5つの評価軸の様に、多様な水環境保全の価値判断の視点に優先すべき順番はなく、地域ごとに判断され合意形成されるものである<sup>2)</sup>ことは広く理解される。そこで、以下では「柴北川を愛する会」の調査者を地域住民の代表とみなして、環境価値の住民意識（重要度）を反映させた水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の活用の検討についての事例を紹介する。

#### 4) AHP手法による水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の活用

環境価値の住民意識の評価手法は各種あるが、ここでは階層分析法（AHP: Analytic Hierarchy Process）を用いた。AHPは、少ないサンプル数でも適用可能であり、より簡便に住民意識を把握できる手法のひとつである<sup>3)</sup>とされる。水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）への適用には、清水ら（2012）の例<sup>4)</sup>がある。ここでは、AHP手法の際に重要な評価項目の階層化を、清水ら（2012）の例と同様に設定し（図4）、「柴北川を愛する会」の調査者による水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の各評価項目間の重要度を一対比較に基づいて決定した。加えて、AHPによる重要度評価を反映し、水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査結果の調査地点間比較を可能とする総合評価方法と、具体的な水環境改善のための優先順位の決定方法を新たに考案した。

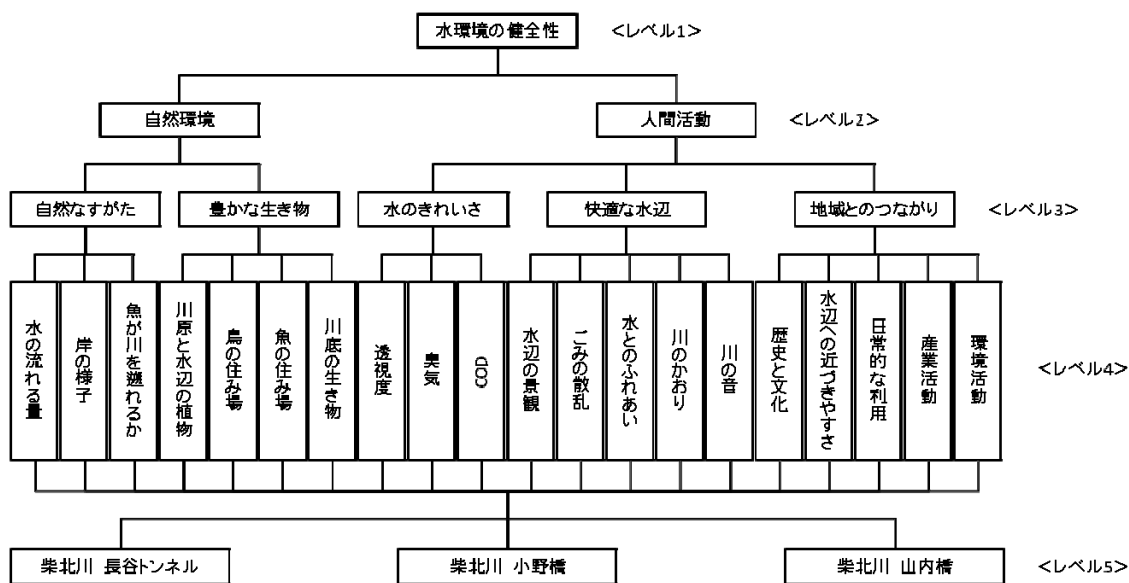


図4 水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の評価項目と調査地点に関する階層図

#### 5) NPOにおける水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の各評価項目の重要度

図5～7にAHP手法に基づいて算出された「柴北川を愛する会」の会員10人（37～64歳）による水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の評価項目（レベル2～4）の重要度を示す。AHPでは、全体が1.0となるように各評価項目の重要度が算出される。評価目標である水環境の健全性（レベル1）に対する最初の階層（レベル2）の評価項目の重要度は、自然環境が0.67、人間活動が0.33と算出され、調査者らは自然環境の方が人間活動よりも重要であると評価した。次に、レーダーチャートの第1軸から第5軸に相当するレベル3では、自然環境のなかでは自然なすがた（第1軸）を、人間活動のなかでは水のきれいさ（第3軸）を重要度が高

いとみなした。さらに、各評価軸における詳細項目であるレベル 4 では、第 1 軸から第 5 軸において、それぞれ水のながれる量、川底の生き物、COD、水辺の景観、日常的な利用の重要度が高いとみなしていることが明らかになった。

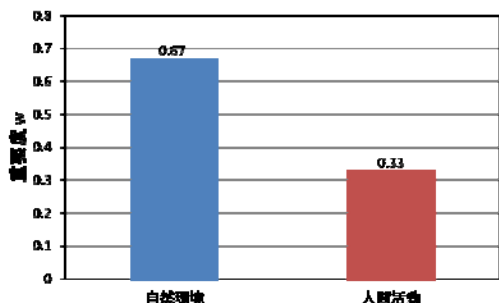


図 5 レベル 2 における重要度

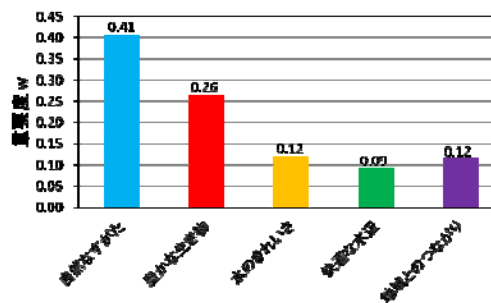


図 6 レベル 3 における重要度

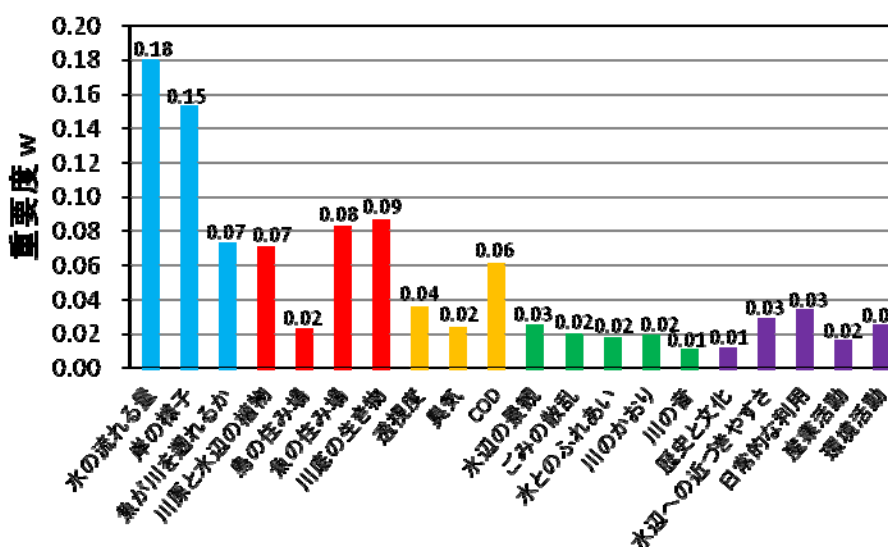


図 7 レベル 4 における重要度

## 6) 調査地点間比較のための総合評価方法と水環境改善のための優先順位の決定方法

水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）調査による各評価項目の評点と、AHP 手法を適用することで明らかになった調査者らによる各評価項目の重要度を掛け合わせて累計することで、環境価値の住民意識を反映させた総合評価点を得ることができる。図 8 は、柴北川流域調査における 3 つの調査地点の総合評価点の比較である。総合評価点を算出することで、調査地点間の比較(優劣)が容易になり、環境改善を行う地点間の優先順位を判断することが可能になる。また、水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）の詳細項目の最高点である 3 点から調査での評点の差（不足値）と AHP による重要度を掛け合わせることで、その地点において総合評価点を向上させるために必要な改善項目を知ることができる。図 9 は、図 8 において総合評価点が最も低かった小野橋における不足値と重要度の乗算値を示す。この算出結果より、小野橋においては水の流れる量、COD、魚のすみ場を優先的に改善することで環境価値の住民意識に合致した水環境を得ることができると期待される。



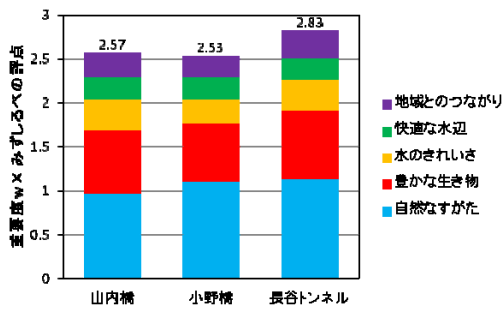


図8 住民意識を反映した総合評価結果

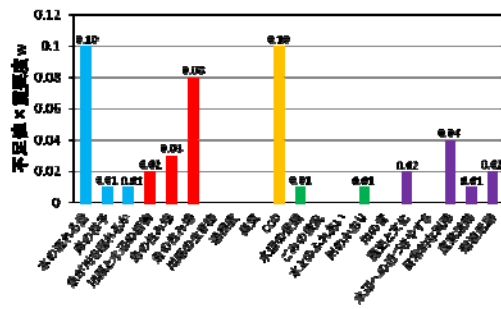


図9 小野橋の環境改善のための優先順位

(高見徹)

### 【参考文献】

- 1) 山本郷史 (2011) 水辺のすこやかさ指標 (水環境健全性指標 2009 年版) の開発と今後の展開、水環境学会誌、Vol.34(A)、No.11、pp.354-358.
- 2) 山田一裕 (2011) 地域住民は水環境に何を求めているのか?、水環境学会誌、Vol.34(A)、No.11、p.335.
- 3) 栗栖聖 (2011) 水環境分野における住民意識把握の手法、水環境学会誌、Vol.34(A)、No.11、pp.341-347.
- 4) 清水康生、高橋弘二 (2012) 水環境健全性指標を適用した AHP 手法による水環境の評価に関する研究、水環境学会誌、Vol.35、No.9、pp.143-149.

### 4.1.3 兵庫県—武庫川水系での事例

兵庫県東南部を流れる武庫川は、流域面積 580km<sup>2</sup>、幹川流路長 66km の 2 級河川であるが、流域圏人口約 140 万人で、下流部想定氾濫区域内には人口 107 万人、社会資本約 18 兆円を有し、これらはいずれも全国第 10 位の重要河川である。

武庫川では、「総合治水」の一環として中流部に県営治水ダム建設が計画された。しかし、市民による反対運動が起きたため、新河川法に基づき市民の意見を反映させる武庫川流域委員会が県によって 2004 年度に設置され、行政、専門家、市民の間で 6 年半にわたり議論が行われた。その後、流域委員会がダムに頼らない総合治水の方向性を打ち出し、県もこれを尊重する方向へと方針を転換したことによりダム建設計画は白紙に戻ったが、この過程で、武庫川の治水の今後を監視し続ける必要性を感じた専門家により NGO「武庫川づくりと流域連携を進める会」が設立され、2008 年度より春秋年 2 回 (2008 年度は春のみ) の武庫川水系の水質一斉調査が実施されている。

水辺のすこやかさ指標による武庫川の評価は、第 1、第 2、第 5 軸に独自評価項目も加え、1~5 の 5 段階評価法により、2011 年度から上記の一斉調査時に実施されている。調査地点は本川 13 地点、支川 16 地点の計 29 地点であり、調査前降雨の影響による評価結果の低下なども観測されている。

(古武家善成)